



柿 特 報 No.4

H30.6.17
JA中野市営農センター
JA中野市柿研究会

定期散布を徹底し、高品質な柿を生産しましょう！

5月下旬からの高温で生育が進んでいます。花のついていない枝(カラ枝)が散見されますので様子を見ながら摘果(結果調整)を行ってください。

病害虫の防除は予防を意識し、早めの散布を実施しましょう。

病害虫防除

◎6月下旬(6月20日～6月28日頃まで)の薬剤散布

●収穫前や収穫中の作物に飛散しないよう、十分注意する。

散 布 薬 剤	水	100 ℓあたり	散布日	6月	日
	展着剤	10mℓ	散布量	ℓ	
	オーソサイド水和剤 80	100g	収穫7日前、5回以内		
	モスピラン顆粒水溶剤	25g	収穫前日、3 回以内		
対 象 病 害 虫	落葉病、炭疽病、すす点病				
	アザミウマ類、カイガラムシ類、カキノヘタムシガ、カメムシ類				
散 布 量	10a当り500ℓ				
	＊若木の場合、樹体に十分かかる量を散布する。				
注 意 事 項	① 前年、落葉病が多発した園地は、今回の防除を必ず実施してください。				
	② オーソサイド水和剤80に代えて、スコア顆粒水和剤 3000 倍(前日、3 回)でもよい				

防除の際は必ず栽培日誌に記帳しましょう

次ページもご覧ください。



柿 特報

No.5



2019. 6. 17
JA中野市営農センター
JA中野市柿研究会

病害虫防除

隣接園(特に収穫期の作物)に飛散しないように注意してください

●7月上中旬の散布(7月5日～7月15日頃)

散布薬剤	水	100ℓ	散布日	7月	日
	展着剤	10mℓ	散布量		ℓ
	キノドー顆粒水和剤 100g(収穫14日前まで、5回以内)				
対象病害虫	落葉病、炭疽病、うどんこ病				
散布量	10a当り500ℓ ＊若木の場合、樹体に十分かかる量を散布する				
注意事項	① カイガラムシ類の発生が多い場合は、スプラサイド水和剤 1500 倍(30 日前、3 回)を加用する。 ② すず点病が発生する園地は、キノドー顆粒水和剤に代えて、ベルコート水和剤 1,500 倍(14 日前、3 回)を散布する。 ③ 昨年、カキノヘタムシガ(ヘタムシ)が発生した園地(収穫前落果の発生園)では、スミチオン水和剤 40(収穫 45 日前、3 回)の 800 倍を加用する。				

◆ 柿 栽培管理講習会の開催について

期 日 : 7月 4日(木) 午前 9時 南部共選所 集合
午前 11時 科野事業所 集合
内 容 : 摘果のポイントについて 防除等、栽培管理について

農作業中の事故にご注意下さい

- ・ハシゴは、チェーンや紐で止め、開かないようにして使用する。
- ・ハシゴの一番上の段に乗って作業は行なわないようにする。
- ・梅雨期は降雨により地盤が緩みます。傾斜地でのハシゴ・SSの走行等に十分注意する。